

政策の基本	人づくり
人づくりの視点	人をはぐくむ

## 1 プロジェクトの概要

目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生きる力を身に付け、夢や希望を持って成長していけるよう、次の時代を担う子どもたちをはぐくみます。</li> <li>○ 一人ひとりの個性や能力を存分に発揮し、夢や目標の実現に向け自らの力で人生を切り拓いていけるよう、これからのとちぎを担う若者の自立する力をはぐくみます。</li> <li>○ 自己実現に向けて、様々なチャレンジやキャリアアップに取り組んでいけるよう、大人世代の挑戦を支援します。</li> <li>○ 子育てを通して自らも親として成長していけるよう、社会全体で子育て世代の子育て力を高めます。</li> </ul>
取組の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆成長の基礎をはぐくむ（子ども世代）</li> <li>☆生きる力をはぐくむ（子ども世代）</li> <li>☆自立する力をはぐくむ（若者世代）</li> <li>☆挑戦する心をはぐくむ（大人世代）</li> <li>☆子育て力をはぐくむ（子育て世代）</li> </ul>

## 2 成果指標等の状況

成果指標	基準 ・全国平均 ・全国順位	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	目標 H 2 7
① 将来の夢や目標を持っている小学生の割合（小6）	87.6% (H22) 86.8%		87.6%  86.8%	震災の影響で調査が中止となったため、データなし				90.0%
出典：文部科学省 全国学力・学習状況調査	達成見込		—					
② 「とちぎの子ども基礎・基本」の習得状況（中2）	76.8% (H21)	76.8%	76.8%	72.4%				80.0%
出典：県教育委員会「とちぎの子ども基礎・基本」習得状況調査	達成見込	—						
③ 小・中学校における不登校児童生徒の出現率	1.39% (H20) 1.15% 46位	1.40%	1.29%					減少を目指す
出典：文部科学省 学校基本調査	達成見込							
④ 新規学卒者（大学）の就職内定率	85.7% (H21)	85.7%	86.7%	88.2%				95.0%
出典：栃木労働局調べ	達成見込	—						

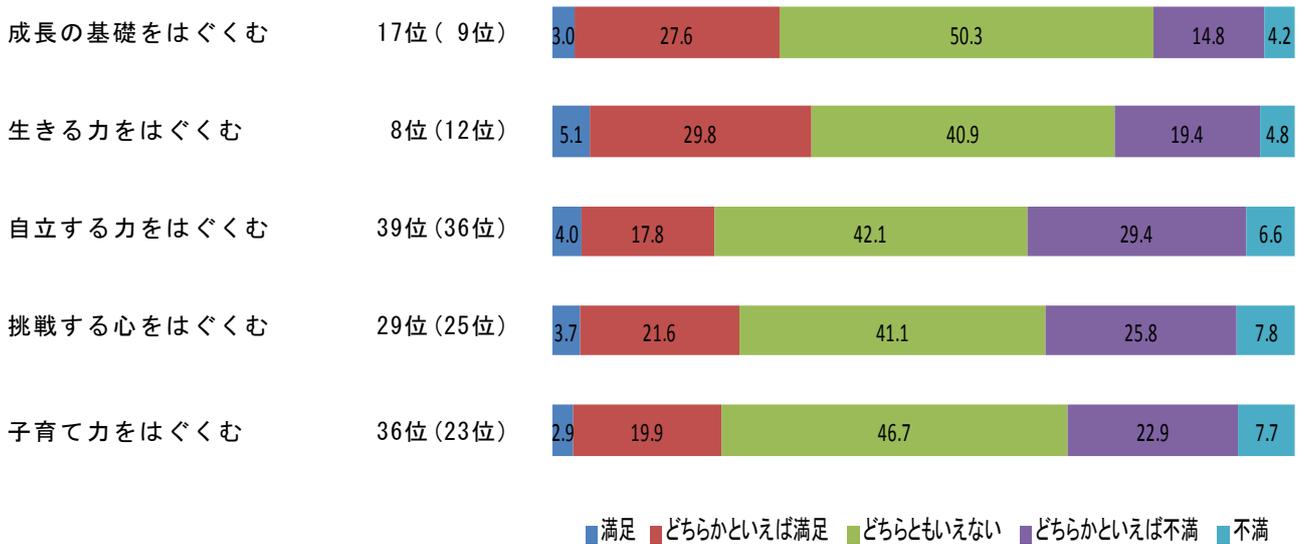
⑤ 特別支援学校(知的障害)高等部卒業者の就職率	30.1% (H21)	30.1%	33.2%	34.0%				33.0%
出典：県教育委員会調べ	達成見込	—	☀️	☀️				

(注) 目標達成見込の判断 ☀️ : 概ね順調 ☹️ : やや遅れている 🌧️ : 遅れている

【成果指標の分析】

- ① 東日本大震災の影響で平成23年度の全国学力・学習状況調査が中止となったため、H23のデータはありません。
- ② 習得状況調査の結果を分析した上で、授業や指導の改善に努めていますが、目標達成に向けて遅れが生じています。
- ③ スクールカウンセラーの配置を増やすなどして、いじめ、不登校に対する相談体制を整備した結果、出現率が減少しました。
- ④ 厳しい雇用環境の中、国や関係団体との連携を図るとともに、ジョブカフェとちぎを中心に就労相談やキャンペーン事業等を実施するなど、若者の就労支援に取り組んだ結果、就職内定率が上昇しました。
- ⑤ 企業や障害者就業・生活支援センターなどの就労支援機関と連携を図り、障害のある生徒一人ひとりに応じた職業教育や進路指導に取り組んだ結果、就職率が上昇しました。

【県民満足度調査結果】



※順位は、「満足」及び「どちらかといえば満足」と回答した割合をもとに順位付けした。( )内は昨年度の順位。

3 主な取組成果と課題

<b>【成果】</b>
<b>☆成長の基礎をはぐくむ(子ども世代)</b>
○就学前教育の充実
<p>《主な取組》</p> <p>① 家庭及び地域における幼児期の教育への支援          幼稚園長等が、乳幼児期の子どもがいる家庭に対し、子育てに関する悩みの相談や情報提供を行うなど、幼稚園、保育所が地域における幼児教育の中核的施設となるための研修(パワーアップセミナー)を4回(40名参加)実施しました。</p>

②幼児教育に携わる教職員の資質向上  
幼稚園教諭、保育所保育士を対象とした「スキルアップセミナー」を年3回開催し、講話及び実技演習を通して、幼稚園教育要領、保育所保育指針への理解促進を図りました。

## ☆生きる力をはぐくむ（子ども世代）

○確かな学力の育成

### 《主な取組》

- ①「わかる授業」の展開や家庭学習の習慣化等による確かな学力の育成  
小学校低学年及び中学校全学年における35人学級を実現するとともに、小学校低学年において必要度の高い学級及び指導困難な小中学校（特別支援学級を含む）における非常勤講師を配置し、児童生徒一人ひとりに教師の目が届くようきめ細かな指導を実施することにしました。  
また、「とちぎの子どもの基礎・基本」習得状況調査を継続的に実施し、結果の分析に基づく授業改善プランの作成配布などを行いました。
- ②教員OBなどの地域人材の活用による多様な教育への支援  
教員のOBを約130名登録し、そのうち実際に約100名のOBが学校支援に関わることができ、学校において、きめ細かな指導ができるようになりました。

○「心の教育」の充実

### 《主な取組》

- ①豊かな自然とのふれあいや様々な人との交流などの体験活動の充実  
青少年教育施設において、高校生ボランティアリーダーを養成するとちぎユースボランティア研修（H23：26名参加）や、不登校や不登校傾向の児童生徒を対象としたふれあいキャンプ・交流会（H23：59名参加）を実施することで、豊かな自然とのふれあいや多様な人々との交流などの体験活動の機会の充実を図り、子ども達の生きる力の育成につなげることができました。  
また、青少年教育施設の機能を生かした防災キャンプや指導者養成を行うことで、防災意識の向上を図りました。
- ②いじめ・不登校などの問題行動等の未然防止や早期解決に向けた支援の強化  
スクールカウンセラーの配置については、配置数を継続して増やすとともに、いじめ、不登校に対する相談体制を整備することができ、また、教師用指導資料「学業指導の充実に向けて」（H24.3月）を作成し、全教職員に配布するとともに、一層の充実を図りました。

○基本的な生活習慣や望ましい食習慣の習得及びスポーツや文化活動に取り組める環境づくり

### 《主な取組》

- ①「走る・跳ぶ・投げる」など児童生徒の基礎運動能力の向上  
「とちぎ元気キッズ育成事業」を展開し、なわとびカード、啓発ポスター、とちまるステッカーの作成配布や学校奨励賞表彰の実施、またプロスポーツチームとの交流などを実施しました。

○障害のある子ども一人ひとりに応じた指導と支援

### 《主な取組》

- ①個別の指導計画等に基づいた適切な指導及び必要な支援の充実  
平成23年度から開始した小・中学校から特別支援学校への1年間の研修交流（21名）において、指導のために学校訪問を行い、特別支援教育に関する専門性の向上を図ることができました。
- ②発達障害児等の支援のための小・中・高の一貫した指導体制の確立（特別支援教育室）  
指導の連続性を図るために、平成22年度末に中学校から県立高等学校への指導内容等の引継ぎ（生徒87名）が行われ、高等学校では入学後の学習指導等に引継ぎ内容を活かすことができました。

## ☆自立する力をはぐくむ（若者世代）

○キャリア教育の充実

### 《主な取組》

- ①企業等における多様な就業支援  
高校生のインターンシップを充実させるために、受け入れ事業所の拡大と地域や企業との連携強化を目指して「学校・地域連絡会議」を実施するとともに、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要となる能力や態度を育てるため、15校でジュニア・キャリアアドバイザー事業を実施し、28校で民間講師招へい事業等を実施しました。

○社会参加の促進
<p>《主な取組》</p> <p>①ボランティアなどの体験活動の機会の充実  震災を教訓として、各学校でボランティアに関する意識の高まりが見られるとともに、被災地でのボランティア活動や訪問活動等を行った各校の特色ある取組を、「東日本大震災に係る県立学校の取組」としてホームページで紹介しました。</p>
○就労相談や職業訓練などの支援
<p>《主な取組》</p> <p>①産業技術専門校における企業ニーズに合わせた訓練内容の充実  県立産業技術専門校において、実務的な資格取得の訓練に荷役関連の資格取得に向けた訓練（玉掛け技能講習、フォークリフト技能講習、クレーン特別教育、高所作業車運転特別教育）を追加するなどして訓練内容を充実（資格取得率96.8%）させました。</p> <p>②高等特別支援学校の整備推進  学識経験者、企業関係者、労働関係者、保護者代表等で構成される検討委員会（5回開催）の意見を踏まえ、平成24年3月、高等特別支援学校整備基本計画を策定しました。</p>
☆挑戦する心をはぐくむ（大人世代）
○就労支援の充実
<p>《主な取組》</p> <p>①労働局などの関係機関との連携による就職支援の強化  「ジョブカフェとちぎ（とちぎ就職支援センター）」及び「とちぎ求職者総合支援センター」において、生活・就労相談やキャリアカウンセリングを実施したほか、「とちぎジョブモール」の開所（平成24年4月）に向け、関係機関との協議を行いました。</p> <p>②離職者等を対象とした職業訓練の充実  東日本大震災の影響による雇用情勢悪化への対応のため、離職者等を対象とした産業技術専門校での訓練や民間教育訓練機関等への委託により、訓練内容の充実を図りました。</p>
○新たな知識や技術を習得し、能力向上を目指すことができる環境づくり
<p>《主な取組》</p> <p>①企業在職者の専門的知識の習得や技能の向上への支援  とちぎマイスター等の「栃木ものづくり人財バンク」に登録されている本県の優れた技能者を講師とし、企業からの依頼に応じて内容を柔軟に設定できる在職者向け技能講習（とちぎマイスター技能向上塾）を新たに実施し、企業からの多様な訓練ニーズに応える体制を整備しました。</p>
○女性が社会の様々な分野でさらに活躍できる環境づくり
<p>《主な取組》</p> <p>①女性の再就職や起業など様々なチャレンジへの支援  とちぎ男女共同参画センターにおいて、様々な分野で活動できる人材を育成するための各種セミナーや父親の子育て参加を支援する講座等を実施しました。また、県民生活活性化基金を活用し、キャリアアドバイザーによる就職相談や就職準備説明会を実施しました。</p>
☆子育て力をはぐくむ（子育て世代）
○親の子育て力の向上とやがて親となる世代の子育て力の育成
<p>《主な取組》</p> <p>①親学習プログラムの活用など、子どもを育てる親や、やがて親となる世代に対する学習機会の充実  学習機会を提供する指導者を新たに養成（64名）し、市町や企業等と連携しながら、保護者を対象とした学習機会の拡充を図ることができました（県内391か所で実施）。  また、課題が多様化する思春期の子を持つ保護者を対象にした学習プログラムを開発し、中学校や高等学校の保護者会等において学習機会を提供することができました。</p>

○社会全体で家庭の絆や子育て力を育む取組の推進

《主な取組》

- ①「家庭の日」の定着に向けた普及啓発  
県有施設における優待制度（12施設の小人料金無料）の実施や普及啓発チラシ（50,000部、県内小学校1、6年生等に配付）を配付したほか、絵日記コンテストの実施（応募作品701点）、各種メディアを活用した広報、啓発協力企業による広報（足利銀行107店舗での電光掲示板による広報、牛乳パックを活用した広報）を実施することにより、全県的な普及定着を図りました。
- ②「とちぎの子ども育成憲章」の普及啓発  
学校、関係機関・団体、民間企業等に対して、ポスターの掲示（約3,500枚）やちらしの配布（約20万枚）を依頼するとともに、県内主要メディア（とちぎテレビ、FMとちぎ、栃木放送、下野新聞）による広報を実施したほか、市町等の関係機関の広報誌やフリーペーパー等への掲載（12誌）を行いました。さらに、各種研修会等において憲章の紹介や説明（93回）、参加者による唱和（37回）を行い憲章の浸透を図りました。

【課 題】

☆生きる力をはぐくむ（子ども世代）

○確かな学力の育成

＜新たな学力向上のシステムの構築＞

県内すべての児童生徒一人ひとりの学力の向上を平等に支援し、さらなる学力向上を図ることが課題となっています。このため、すべての児童生徒を対象とした学力調査によって、一人ひとりの学力の状況を把握した上で、児童生徒一人ひとりに応じてその結果を十分に活用し、教師自らが指導の改善に取り組むなど、総合的に学力を向上させる新たなシステムを構築する必要があります。